

ミュージアム研究員紹介

渡辺友美准教授

渡辺友美

ふじのくに地球環境史ミュージアムで環境・環境史分野を担当する渡辺です。2025年4月1日付けで着任しました。展示学、博物館情報・メディア、水環境を専門として研究活動を行っています。活動内容は様々ですが、総じて海や川、そしてそこに棲む生きものに関する情報発信の研究と言えます。本稿ではこれまでと、これからの研究について書いてみます。

私の研究活動のスタートは、ウニを材料とした細胞生理学・生物物理学研究でした。顕微鏡下での現象を映像に捉え解析する研究に魅了されると同時に、その面白さを人に伝えることにも興味を持ち、修士修了後は自然系博物館を中心とした展示映像・ソフト開発に携わりました。その後も研究現場と社会を繋ぐ活動を継続していましたが、2012年より国立研究開発法人土木研究所で河川環境の情報発信研究に取り組んだことをきっかけにこれらを研究テーマとして発展させ、博士号を取得しました。この頃から現在まで、生物学・生態学・展示デザイン・教育工学といった領域に跨がる学際的研究に取り組んでいます。

ふじのくに地球環境史ミュージアムは、「ふじのくにの自然の実態や成り立ちを調査研究するとともに、人と地球上の生態環境との関わりを歴史的に研究することで、過去から現在を見通し、未来の在り方に示唆を与える『地球環境史』を研究する県立博物館」とされています。これまでの研究や実践から、展示学を基軸とした水環境・人と自然の関わりの視覚化の研究が、未来の在り方への示唆となり得る手応えを感じています。

例えば2018年夏にミュージアムでも開催頂いた巡回展「教室ミュージアム 海のめぐみをいただきます！展」では、複数のアプローチでこのことに取り組みしました。給食のお皿をスクリーンとしたプロジェクショ



「海のめぐみをいただきます！展」での
プロジェクションマッピング映像展示

ンマッピング映像では、お皿に盛られた「今日のごはん」が、徐々に食材の姿に戻ります。味噌汁なら大豆と豆腐は土へ、鰹節とワカメは海へという具合です。文字やナレーションがなくても、お皿の上で刻々と変化する映像が子ども達に「今日の給食の海のめぐみは？」と考えさせます。焼津ほかで行った鰹節作りに関わる人々への聞き取り調査では、職人・企業人・漁業従事者などが見る環境や社会の変化、展示を見る人へのメッセージなどを収集しました。温暖化の影響、水産物の需要の世界的変化、資源の持続可能性といった現在の課題と未来への示唆が、データで示さずとも複数の話者の話から浮き彫りになりました。ワカメのキャラクターが自身の生いたちと住環境を語ると、それは侵略的外来種の話に繋がります。アプローチも相手も様々ですが、伝えることの「本質」を精査した上で、相手に「響く」表現を工夫し続ける必要があると考えています。

ミュージアムでは静岡県内外の水環境を中心に、生態環境、そして人と自然の関わりを見ていきたいと考えています。それらを基礎に、ターゲット・伝える内容・伝える手法のそれぞれを精査して時に表現し、それらを評価し、以後の情報発信に資する研究・活動を進めていきます。静岡のフィールドはまだまだ知らないことだらけです。ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。